

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

全校一致のもと、誠実でやさしさと活力あふれる人間を形成する。

- 1 一人ひとりの個性・才能を生かし、知力・体力を育成する。
- 2 自ら考え、責任ある行動がとれる人間を育成する。
- 3 誠実で品性の高い教養のある人間を育成する。
- 4 男女・民族・ことばの違いを越え、互いの人権を尊重し、平和を願う人間を育成する。
- 5 自然に親しみ、自然とともに生きることが大切だと思える心を育成する。

2 中期的目標

【現状】

知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など、日本の社会は大きく変化してきました。そのような時代の中、教員に求められる資質能力について、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めていくことのできる力、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点から授業改善する力、「チーム学校」の考えの下、外部人材と連携して組織的・協働的に取り組む力が必要であるとされています。

また、待ったなしの大学改革に始まり、高等学校の制度や大学入試制度のあり方を根本的に変える「高等学校基礎学力テスト（仮称）」、「大学入学希望者学力評価テスト（仮）」や「新学習指導要領」に向けて、新しいカリキュラムも制定していかなければなりません。さらに少子高齢化が進行する状況の中、本校にとっても志願者数の恒常的確保に向けての戦略的広報を展開していかなければなりません。

具体的に達成していくための中期的目標として、以下の3点を掲げます。

1 疑問（なぜ）から納得（なるほど）へと学びの質の変化に対応した学力の育成

(1) 本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

ア 学習効果は、「伝える能力」と「受け止める能力」のマッチングで左右される。できる限り mismatch が生じないように、生徒のレディネスに応じた教育内容を踏まえ、「わかる授業、充実した授業および創造性を育成する授業」をめざす。

※授業アンケートの「授業の満足度」を毎年90%(平成28年度:85%)以上にする。

イ みらいスクール等を利用してオリジナルテキスト教材（含デジタル教材）の共有化を各教科・科目進めていくことで、効率化を図り、教材にかかる時間を軽減していく。

※ICTを活用した授業を実施した教員の割合（平成28年度:65%）を平成29年度には70%以上にする。

※学校評価アンケート「施設・設備等の学習環境」の肯定評価（平成28年度:80%）を平成29年度には85%以上にする。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1) 「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に連携させ、志学、人権教育等を総合的に行うことのできる「関倉型キャリア教育」の指導計画を確立する。

ア 学年・進路指導部が軸となり、総合的な学習の担当者とも連携し、3年間を見通したキャリア教育を行う。

※学校評価アンケート「体験授業や授業以外の学習機会」の肯定評価（平成28年度:80%）を平成29年度には90%にする。

※学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価の肯定評価（平成27年度:81%）を平成29年度には90%以上をめざす。

イ 外部講師を総合的な学習の時間やLHRにおいて積極的に招くとともに、生徒による振り返り・発表の機会を増やす。

※学校評価アンケート「講演・体験授業などの機会が多い」の肯定評価（平成28年度:82%）を平成29年度には90%以上にする。

ウ 校内実力や外部模試等のデータを一つにまとめ、新たに進路資料システムとして、ジャパン・ポートフォリオを活用して学習指導・進路指導に役立てる。

※難関大学合格者（平成28年度:国公立大学合格者数134名、東大、京大、阪大、神戸大の合格者数合計31名）を平成29年度に国公立大学合格者数180名以上、東大、京大、阪大、神戸大等の難関国公立大学の合格者数合計60名以上（京大合格者数10名以上）に引きあげる。

(2) 学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能）の育成に取組み、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

ア 英語によるコミュニケーション力の育成（リスニング・プレゼンテーション講習・放課後の校内留学）

イ 本校との姉妹校である韓国善隣インターネット高校ホームステイの希望者に対して、韓国語や英語及び韓国の文化を学ぶ事前学習として、関倉版エンパワーメント・プログラム（立命館大学に留学している韓国の大学生、大学院生とのディスカッションやコミュニケーションを通して、自分の将来に何が必要かを考え、気づき、行動していけるようなグローバル人材を育成するプログラムを全日3日間学校で実施）を実施する。

ウ トビタテ!留学 JAPAN やおおさかグローバル塾への応募者数・合格者数を増やす。

エ オックスフォード・ケンブリッジやオーストラリアの語学研修の内容を充実させ、生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。

オ 6貫生において、中学3年の3学期において、探求学習（中期留学・各テーマ別課題等々）を検討する。

※実践的英語力の伸びを測定するのに、GTEC及び実用英語技能検定等を用いる。

※留学に関する意識調査（文科省）の「留学したい（国際社会への関心）」の割合（平成28年度:60%）を、平成29年度には75%以上にする。

(3) 地域関係諸機関との連携、高大連携について協議し、推進する。

ア 大阪大学IRIS（国際教育交流センター）等と提携し、留学生との交流を通じて実践的な英語力の向上を図る。

イ 保護者、地域関係者に対する生徒校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。

※学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価（平成28年度:45%）を29年度には60%以上にする。

3 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立

(1) 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる。

※学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価（平成28年度:85%）を平成29年度には90%にする。

(2) 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。

ア 学校行事等のHPでの紹介、学年だよりを充実させる。

(3) 生徒理解の促進と安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。

ア いじめ対策委員会の活性化

イ 学校保健委員会・安全衛生委員会の充実

ウ 緊急の場合に備えて全教職員がAEDの使用法を学ぶ。

4 教員の授業力等の資質向上に向けた取組み

- (1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年2回組織的に実施する。
- (2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。
- (3) 校長主催の初任者（本校に初めて着任する専任教員及び常勤講師）研修を組織的に行い、学校をより活性化させる。
- (4) 年度の必要性に応じて、教員研修として、複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。

※学校評価アンケート及び授業アンケートを必ず2回実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者からの評価】

学校評価アンケートの結果と分析 [平成29年1月実施分]	学校関係者評価
<p>○平成29年度の学校評価アンケートについて、生徒からの回収率はほぼ100%、保護者の方は50%の回収率で、昨年度と比較して約10%増の状況です。反省材料にしなければいけないところは、「本校への入学を友人・知人・親戚などに勧めることができますか」という項目において中学生は60%、高校生は50%ぐらいで、それ程良い評価にはなっていないということです。新しい教育といわれる「グローバル化」「アクティブラーニング」などへの取組みがどうかという点についても、まだ弱いという印象を受けます。そして、本校の行事の取組みですが、ここは学年の特色が出るかもしれませんが、高校1年生の肯定評価が40%ほどで低いかというところ。最後の「学校のHPをよく見ますか」という項目は、お子さんと親御さんの評価が対照的なところで親御さんはよく見ているが、生徒さんはあまり関心がないという結果になっています。</p> <p>○これらのアンケート結果から言えることは、伝統も重要ですが、時代の流れに沿った形、社会が要求している力を身につけさせなければならないと考えています。中学の入学者が減り、高校も若干の減りが見られる中、選ばれる学校でなければならないと考えています。そのためには、120周年の節目を迎える中、再度ビジョンを確認し、今一度本校の魅力を戦略的に伝えていかなければなりません。魅力としては、この広大な土地のある環境の中、ゆっくりしっかりと充実した六貫教育が行えるということ、同時に110年以上の歴史を未来に伝えていくことも重要だと思えます。また高校入試で安定して併願校として位置づけられているのは、どのコースであってもクラブが自由にできるということは、クラブの制限が多い私学の中、大きな魅力だと思えます。勉強とクラブの両立は永遠の課題とも言えますが、どれだけ選択しながらやるかが大事だと思えます。本校の生徒は大変まじめで、勉強もクラブも行事も一生懸命やるというようになかなか物理的な時間が取れないということがあって、日曜日は休みにしてほしいということにつながると思えます。在学中に将来の進路を見据えた進路指導、私学ですので生徒(生活)指導はきっちりとやらせていただき、最後は人間教育を行う。このようなことを確認しながらも数値目標も立てる必要がありますので、入学者数として、中学校で120名以上、高校で480名以上という最低ラインを確保しなければいけません。今後恒常的に定員を確保しながら、出口の進路実績も重要ということです。今年度は非常に検討してくれて、国公立で194名はでしたが、目標としては200名、京阪神は50名以上にします。また本校にきてしっかりやれば、関関同立レベルは行けますよというように持っていきように数値化を明確にすることが必要です。2番目にこの学校評価委員会の目的は、委員会で決まったこと話し合ったことを、理事会・評議委員会や校内の企画・運営委員会などで発信し、一つずつでも実現していかなければなりません。3番目は、生徒たちに対して弱いと指摘されているICT化・グローバル化を進める教育課程についての検討を進めなければなりません。</p>	<p>第2回(平成29年12月26日) 第3回(平成30年4月28日)</p> <p>今年度の学校評価委員会の委員の先生方からは、主に、「6貫生をどのようにしたいのか」というのと、「校長の思いと教職員の思いが少しずれているのではないか」ということが話題に上がった。</p> <p>学校評価アンケートの結果、特にとくに教職員の回答結果が気になりました。「私は、授業のことも生徒のことも保護者のことも頑張っている。しかし、学校はダメだ」といった声が聞こえるような気がしました。いつでしたか、以前に、生徒に対して「私はベストを尽くす、君たちもベストを尽くしてほしい」といった教員側の意気込みと覚悟を生徒に示すことの重要性を感じましたが、今回のアンケート結果には、先生方と管理職の間に深い溝のようなものを感じ、先生方から信頼される学校づくりをしていく必要があるような気がしました。先生方も学校批判で終始することなく、先生方が力を合わせ、それぞれができること、できそうなことに取り組み、よりよい関西大倉をつくっていくという意気込みと覚悟をもって、ともに手を携え、互いに支え合い、助け合って前に進んでいく、そんな学校づくりが求められているような気がしました。</p> <p>また、「中高一貫教育を効果的に行っている」という項目が高くないのは気になります。」6貫生の独自性ということで、指導方法が違うこともあると思いますので、中学は中学としての学校評価委員会を開いてほしいという意見もあります。関西大倉としての学園の評価という意味合いでは一緒にすべきですし、卒業した時点では一緒に胸を張って卒業してもらいたいと思いますが、中学入試での魅力ある学校の広報という観点からも必要でしょうし、中学(六貫)としての評価を高校と一緒にしてしまうと、何かあやふやなものになってしまう気がします。</p> <p>関西大倉の中学校を受験する子の意志も曖昧なものになっているという話が前にもあったように思えます。基本的には国公立を目指す教育をされていて、国公立に行かそうという親はいいのですが、私立のそれなりの大学でもいいと考えている場合は、先が見えにくいので、大学の附属を持つ中学を受けさせようとする親御さんもおられる。それで中学が減ってきていることもある。</p> <p>もう一度初心に帰って、六貫としてどう育てるかということを検討してほしいと思います。</p> <p>最後に、入試のパンフで、今年初めて部活動の紹介をされましたが、意外と中学生は見ているますので、今までにない内容を打ち出されていますので、今後も継続していただくようお願いしたい。それと部活動の紹介の記事が更新されていないことが多いので、学校のPRのためにもHPの更新もお願いしたい。</p> <p>でない人もいると思うのですが、もうそのことは忘れてここでできることを精一杯やるぞ、第一志望で行った地元の友達を見返してやるぞといった発奮というものがあれば良いと思います。</p> <p>関西大倉中学校・高等学校は、中学生も高校生も関倉生として学園の目指す特色をより明確にしてほしい。彼らは、まだまだ伸びていく要素はたくさんあるという熱意を感じていますので、これからも頑張ってください。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価

<p>1 疑問 (なぜ) から納得 (なるほど) へと学び の質の 変化に 対応した 学力の 育成</p>	<p>(1) 本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。 ア・わかる授業、充実した授業および創造性を育成する授業の推進 イ・オリジナルテキスト教材の拡充 (2) 自ら学習できるように、生徒にニーズに合ったメニューを考えると共にルーブリック評価に取り組む。 ア・一人ひとりの生の学力到達度を共有する。 イ・放課後学習会などの充実。 ウ・ルーブリック評価を段階的に行なっていく。</p>	<p>(1) ア・本校の生徒実態を踏まえ、3年間を見通した学習到達目標の点検を行う。各教科センターレベルは確実にこなせるようにする。 ・小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションなどに対するルーブリック評価の研究を行う。 ・他校の実践的なアクティブラーニング型の授業を見学し、その手法を学び教科活動に取り入れていく。アクティブラーニングに関する委員会を定期的に開催する。 イ・各教科でオリジナル教材(含デジタル教材)の共有化を進める。 (2) ア・一人ひとりの生徒の情報を、ジャパン・ポートフォリオを活用して作成する。 イ・放課後学習会を1学期中間考査終了後、生徒の状況を踏まえて拡充する。 ・大学別など受験校に対応した講座を細分化する。 ウ・生徒の学習評価におけるルーブリック評価作成を、アクティブラーニングに関する委員会で検討する。</p>	<p>(1) ア・生徒授業アンケートの肯定評価を90%以上 ・ICTを活用した教員の割合を70%以上 ・学校評価「施設・設備等の学習環境」の肯定評価を85%以上 イ・オリジナル教材の共有化の割合を70%以上 (2) ア・ジャパン・ポートフォリオの導入に向けて教職員に理解・啓発していく。 イ・学校評価アンケート「学習会や講習会」の肯定評価を90%以上 ・大学入試の難易度に合わせた二次対策講座を設定 ウ・ルーブリック評価を行う取組みを実験的に実施する。</p>	<p>(1) ア アンケートによる全教科平均満足度は86%で少しずつは上昇している。また、ICTを活用した教員の割合は72%、「施設・設備等の学習環境」の肯定評価を86%となりほぼ計画通り行うことができた。(○) イ 教科間、教員間でまだまだ差があり、一部の教員間でとどまる。(△) (2) ア 進路指導部を中心に冊子を作成し、それとジャパン・ポートフォリオをリンクさせる。(○) イ 「学習会や講習会」の肯定評価を88%で、ほぼ計画通りには行うことができた。また、きめ細かく二次対策講座を設定した。(◎) ウ アクティブラーニング委員会は週1回開催することができ、ルーブリック評価等の評価法やAL型の授業研究等、委員のメンバーは非常に積極的に活動することはできた。次年度以降は、この委員会の成果を他の教員にどう反映させていくのが課題となる。(○)</p>
---	--	--	---	---

<p>2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立</p>	<p>(1) 「関倉型キャリア教育」の指導計画を確立する。 ア・3年間を見通したキャリア教育 イ・外部講師の積極的招聘 ウ・新たな進路システムの確立 (2) グローバル社会に貢献できる人材育成 ア・英語によるコミュニケーション力の育成 イ・関倉版エンパワーメントプログラムの実施 ウ・トビタテ! 留学 JAPAN やおおさかグローバル塾への参加 エ・海外語学研修の内容の充実 オ・6貫生の中期留学の検討 (3) 地域関係諸機関との連携推進(高大連携) ア・近隣の大学との高大提携 イ・生徒の自主活動を通して地域との交流</p>	<p>(1) ア・総合的な学習の担当が軸となり、学年・進路指導部と連携し、3年間を見通したキャリア教育の計画をたてる。中でも「企業探求」は生徒の探究活動として深い学びを促進させるプログラムであるので、より充実したものにする。 ・毎月の進路志望調査と個人面談により、高い志を維持する。進路志望に変更があった場合、時期を空けずに個人面談を行う。 イ・「学問体感(国公立大学教員による出前授業)」に関して、事前に生徒から希望アンケートをとり授業内容の充実を図る。 ウ・校内実力や外部模試等のデータを一つにまとめた冊子を作成し、その資料をジャパンポートフォリオとリンクさせ、新たに進路資料システムとする。 (2) ア・放課後の校内留学の開催曜日を増やし生徒が参加しやすい環境を整備する。 ・実用英語技能検定試験のスコア・資格の取得に向けての対策を講じる。 イ・希望者を対象に関倉版エンパワープログラムとして、善隣インターネット高校ホームステイ事前学習を実施して、韓国の高校生との文化交流を図る。 ウ・トビタテ! 留学 JAPAN おおさかグローバル塾への合格者/出願者数を学内掲示や説明会により増やす。 エ・海外語学研修の機会の拡大及び内容を精査し、事前・事後学習の充実を図りながら生徒の英語力を向上させ、多様性受容力を高める。 オ・6貫生の中学3年次における3学期における探求学習として、中期留学(含ニュージーランド視察)等のプログラムを検討する。 (3) ア・大阪大学IRIS(国際教育交流センター)と提携し、高校1年生次の総合学習での「日本文化の紹介」の留学生との交流を通じて実践的な英語力の向上を図る。 ・大阪大学 NPO アベックの説明会における体験談に触れることでグローバルリーダーに必要な素養として豊かな感性と教養を身につけさせる。 イ・部活動を通じ地域との交流を深める。 吹奏楽部、和太鼓部、ダンス部、ソフトテニス部、サッカー部等が積極的に地域に出かけ積極的に交流を進める。 ・古典芸能鑑賞会、企業探求発表会、学園祭、体育祭などの生徒校内発表の場への保護者、地域関係者への参加呼びかけを拡大する。</p>	<p>(1) ア・企業探究の肯定評価を80%以上 ・学校評価アンケート「進路指導」の肯定評価を90%以上 イ・学校評価アンケート「講演・体験授業などの機会が多い」の肯定評価を90%以上 ウ・校内実力や外部模試等のデータを一つにまとめた冊子として進路ノートを作成する。 ・国公立大学合格者数を国公立大学合格者数 180名以上、東大・京大・阪大・神戸大等の難関国公立大学を60名以上(京大5名以上) (2) ア・放課後校内留学の参加者数を40人以上 ・実用英語技能検定試験の各学年での準2級および2級の合格者を前年度比15%増にする。 イ・関倉版エンパワープログラム実施に向けた計画を立案する。 ウ・おおさかグローバル塾への参加数を3名以上 ・トビタテ! 留学 JAPAN への出願者数を5人以上 エ・海外語学研修「英国オックスフォード・ケンブリッジ」及び「オーストラリアホームステイ」の希望者を30人以上。 ・留学に関する意識調査(文科省)の「留学したい(国際社会への関心)」の割合を、75%以上 オ・探求学習プログラムを開発し、中期留学場所を検討する。 (3) ア・アイセックの説明会を最低1回の開催 ・大学や企業等との共同研究に参加 イ・学校評価アンケート「生徒と保護者と地域の人たちとの交流」の肯定評価を50%以上</p>	<p>(1) ア 企業探求の肯定評価は85%。「進路指導」の肯定評価は88%でほぼ予定通り実施することができた。(○) イ 肯定評価は86%で90%には至らなかったが、内容等の充実感については、生徒の評価は昨年以上に高かった。今後も内容を充実させるとともに、より参加人数が増えるよう時期等も検討していく。(△) ウ 進路指導部を中心に校務処理システムや模試等のデータをベースにした進路ノートを作成した。また、国公立大学合格者数は193名で、過去最高を記録した。(◎) (2) ア 放課後校内留学の参加者は38名程度、また、実用英語技能検定試験の各学年での準2級および2級の合格者を前年度比13%増でほぼ計画通り実施することができた。(○) イ 本校との姉妹高である善隣インターネット高校へのホームステイとして、8月上旬の3日間に関倉版エンパワープログラムとして、ホームステイに参加する生徒8名及び立命館大学留学生2名との交流を実施することができた。(○) ウ おおさかグローバル塾参加数は1名にトビタテ! 留学 JAPAN のへの参加者は0名となった。出願者数も予定より少なかった。(△) エ 海外語学研修「英国オックスフォード・ケンブリッジ」及び「オーストラリアホームステイ」の希望者をはそれぞれ45名以上。「留学したい(国際社会への関心)」の割合は80%となり年々上昇はしている。(◎) オ まだ検討段階でほとんど進んでいない。(△) (3) ア ほぼ計画通り実施することができた。(○) イ ほぼ計画通り実施することができた。また、その肯定評価も65%に達した。(○)</p>
-------------------------------------	---	--	---	---

<p>3 安全・安心な学校のための体制確立</p>	<p>(1) 校内教育相談体制の充実 (2) 積極的かつ効果的な広報活動の実施。 (3) 安心・安全な学校体制の確立</p>	<p>(1) ア・カウンセラー2名配置により、より教員等との連携でき、迅速かつ適切な指導ができる体制を確立する。また、必要とする生徒を見立て、必要とあれば他の専門機関を紹介する等の役割を担う。 (2) ア・学校HPの充実及び小中学校・塾等の教育関係機関との連携を図る。 イ・昨年実施した中学入学入試のweb出願の円滑な実施と高校入試への移行も検討する。 ウ・入試制度（含内容）についても検討する。 (3) ア・いじめ対策委員会が中心となり、学校生活アンケート等をもとに生徒のケア体制を確立する。 イ・警報等発令時に加え下校時刻の変更時の緊急メール配信の迅速化をはかる。 ・産業医(学校医)、社労士と連携する。 ウ・より生徒の安全性を高めるために、新たに2台のAEDを設置（合計7台）して、救急救命講習会も2回実施する。</p>	<p>(1) ア・学校評価アンケート「教育相談」の肯定評価を80%にする。 (2) ア・新しいHPの立ち上げに向けてHP委員会を発足させる。 イ・高校入試のweb出願の移行の検討する。 ウ・新たな入試制度を構築する。 (3) ア・いじめ、セクハラ、体罰等の早期発見や予防のために、「いじめ対策委員会」が中心となり、全生徒に向けてのアンケート（年2回）を行い、ケア体制の確立も図るというPDCAサイクルを確立する。 イ・緊急メールの配信者を2人体制とし、相互確認をも実施 ・学校保健委員会を年間3回 安全衛生委員会を毎月実施 ウ・救急救命講習会の参加人数と実施回数。</p>	<p>(1) ア 肯定評価は85%で適切に機能していると思われる。(○) (2) ア HP委員会を発足させることができたが、具体的な方向性までは議論することができなかった。(△) イ 高校入試のweb出願を次年度には実施できる方向性は確認することができた。(○) ウ 実施できなかった。(△) (3) ア 「いじめ対策委員会」が中心となり、全生徒に向けてのアンケートを実施することができ、ケア体制の確立も図ることができた。(○) イ 緊急メールの配信者を2人体制とし、相互確認をも実施することはできた。安全衛生委員会も毎月実施することができた。(○) ウ 救急救命講習会は2回実施することができ、今まで講習を受講したことがない教員はほぼ全員参加することができた。(○)</p>
---------------------------	--	---	---	---

<p>4 教員の資質向上のための取組み</p>	<p>(1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年2回組織的に実施する。 (2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。 (3) 校長主催の初任者研修を行う。 (4) 年度の必要性に応じて、教員研修として、複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。</p>	<p>(1) ア・全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年間2回実施する。 (2) ア・教科ごとに年1回の授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、教科・科目としての授業改善を図る。更に、全体研修会を1回は必ず行う。 (3) ア・時間割に組み込み毎週1回は必ず行う。 (4) ア・最低年2回は、教員研修として、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。 イ・学校評価アンケート及び授業アンケート結果による教員研修を必ず1回は実施する。</p>	<p>(1) ・生徒授業アンケートの肯定評価について、2回目は10%上がるようにする。 (2) ・授業見学の実施。 ・教職員研修の実施。 (3) ・実施できたかどうか。 (4) ・実施した研修の回数</p>	<p>(1) 生徒授業アンケートを2回実施することはできた。肯定評価としては8%程度の上昇で全教員の意識は高まった。(○) (2) 実施できなかった。(△) (3) 計画通り実施することができた。(○) (4) 実施できなかった。(△) *今年度はほとんどできなかった教員の資質向上のための研修を次年度は計画的に実施していく必要がある。</p>
-------------------------	---	--	---	---